G-NET しが じーねっと
滋賀県立男女共同参画センター

2026年11月号 №201

図書・資料室だより

11月12日 から 11月25日

「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されます

暴力は、その対象の性別や加害者・被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。また、女性に対する暴力の根底には、女性の人権の軽視があることから、女性の人権の尊重のための意識啓発や教育の充実を図ることが大切です。



『同意なんかしていない
性被害者たちに何が起きたのか』
菊池真理子 // 著
文藝春秋 2026 年

「嫌だ」と言った。抵抗した。なのにどうして「同意」にすり替えられてきたのか。「不同意性交」をめぐって出会った9人との対話を通じ、性被害を無かったことにしないために、その実態を描くノンフィクションエッセイコミックです。





『私が私を取り戻すまで
性暴力被害のその後を生きる』
石川優実 // 著
新日本出版社 2025 年

性暴力被害には「その後」がある。PTSD によるフラッシュバックや抑うつ、二次加害…。それらが被害者を苦しめ回復を妨げる。性暴力から安心して回復できるために、著者が言葉を紡ぎます。



『刻印
満蒙開拓団、黒川村の女性たち』
松原文枝 // 著
KADOKAWA 2025 年

戦時下、国策により満州に渡った岐阜県黒川村の開拓団。敗戦後生きて日本に帰るために、敵であるソ連に助けを求め、その見返りとして 18 歳から 22 歳の女性たちを差し出した。身も心も傷を負い、帰国後も差別や偏見にさらされ続けてきた女性たちが尊厳を回復するまでを追います。



「バカなフリして生きるのやめた
10 代から考える性差別・性暴力」
仁藤 夢乃 // 著
新日本出版社 2025 年

10 代の頃、差別や暴力にあふれる社会の中を「バカなフリ」をすることで生き抜いてきた著者が、性加害を許さない社会、性搾取のない社会、女性の人権が尊重される社会の実現に向けて声をあげます。



『うみとりくの からだのはなし』
遠見才希子 // 作
佐々木一澄 // 絵
童心社 2022 年

双子のうみとりくはそっくりだけど、ぜんぜん違う。話すのが難しい体のことを、かわいい双子と一緒にやさしいシンプルな言葉で考えます。性犯罪から身を守ること、また相手の体を尊重する態度を学びます。

ジェンダー絵本ってなあに？
ジェンダー絵本の展示とブックトーク

G-NETしがフェスタ2026で、図書・資料室にあるジェンダー絵本の展示とブックトークをおこないます

日時 ： 2026年11月29日(日)
ブックトーク1回目 11:00～11:30
ブックトーク2回目 13:00～13:30
場所 ： G-NETしが 展示ギャラリー
定員 ： 12名

ブックトークに参加希望の方は、電話または二次元コードでお申し込みください

お問い合わせ
G-NETしが図書・資料室
電話 ： 0748-37-3735
NPO法人男女共同参画をすすめる会 IYOU 淡海

G-NET シネマ

『ビリーブ』 ≪日本語字幕≫

2018年／アメリカ／120分

1970年代アメリカ。貧しい家庭に生まれながらも努力を重ねハーバード法科大学院に入学し、夫の協力のもと首席で卒業するが、女だからというだけで雇ってくれる法律事務所は無く…「男女平等」裁判に挑んだ女性弁護士ルース・ギンズバーグの爽快な感動実話。

12月12日(土) 13:30～

滋賀県立男女共同参画センター“G-NETしが” 視聴覚室
定員80名 参加無料＆申込不要
無料託児あり；12/5(土)までにお申し込みください

男女共同参画絵本を紹介



『おおじしんからいのちをまもるえほん 親子で学ぶ「そのとき」どうする？』
石塚ワカメ // 絵
清永奈穂 // 監修・文
KADOKAWA 2025年

地震発生の瞬間から、屋内・屋外避難、避難所生活まで、大地震を生き延びるために親子で知っておいて欲しいことが詰まった、防災絵本の決定版です。

図書・資料室 ご利用案内

●開室時間 9:00～17:00
●11月の休室日 2日、4日、9日、16日、24日、30日
●貸出(本・雑誌)15冊 3週間まで
(DVD) 2本 1週間まで
●お問い合わせ先(電話)
0748-37-3735(図書・資料室直通)
0748-37-3751(センター代表)



滋賀県立男女共同参画センター
公式インスタグラム

滋賀県立男女共同参画センター
の情報はこちらから